

八幡浜市学校施設長寿命化計画 【概要版】

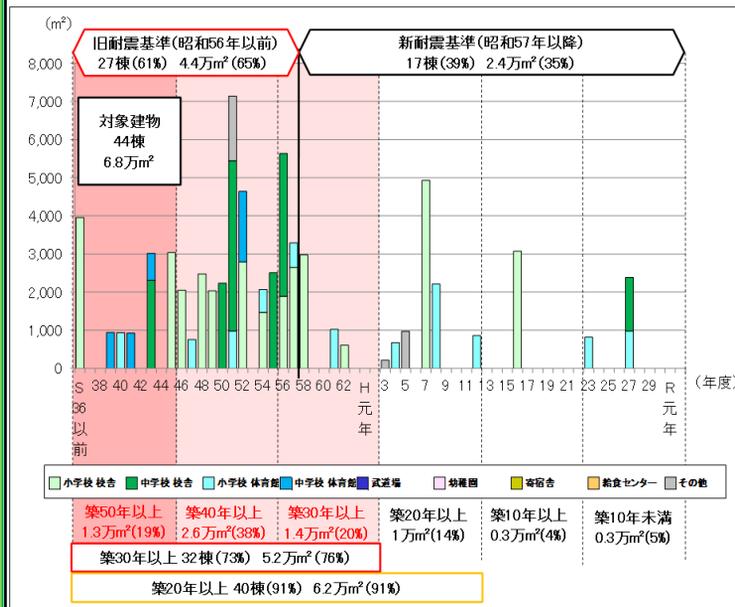
わが国においては、戦後の人口増加や高度経済成長に伴う行政需要の増大等に対応するため、昭和30年代以降、集中的に公共施設等の整備が進められましたが、現在、これら施設の老朽化が大きな社会問題となっています。高度経済成長期に集中整備された公共施設等に係る建替えや改修などの更新費用は、今後、厳しい財政状況が続く中で増加していくことが予想されています。

本市は、公共施設等総合管理計画（平成29年3月）を策定し、学校施設については長寿命化できるものは長寿命化し適正に改修をするとともに、教育環境の品質改善も考慮しながら、それに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として八幡浜市学校施設長寿命化計画（令和3年3月）を策定いたしました。

現状

学校等施設の整備状況

築年別整備状況



老朽化の現状

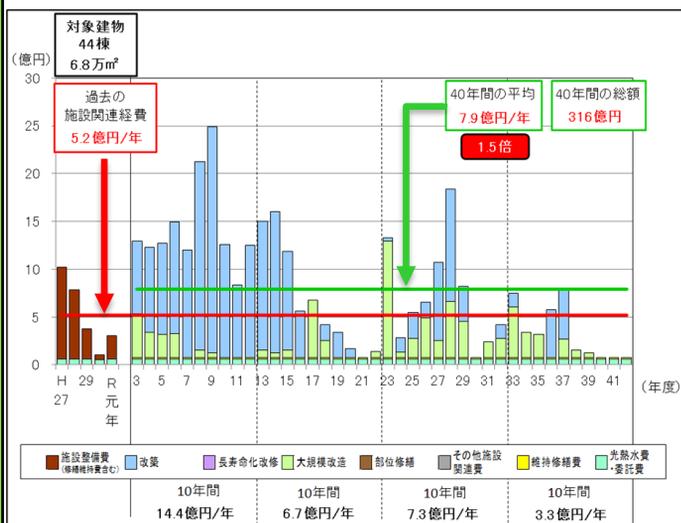
- ◆施設棟数：44棟
- ◆施設の総延床面積：6.8万㎡
- ◆老朽化の状況：
旧耐震基準（昭和56年以前）で建てられた施設は27棟 4.4万㎡であり全体の**65%**ですが、ほとんどの施設で耐震補強が行われています。また、建築後30年以上経過している建物は32棟あり、この延床面積5.2万㎡は全体の**76%**です。老朽化した施設が多く、将来の建物に係る改修等更新費用の増加が懸念されます。

老朽化対策が必要

課題

学校等施設の更新費用予測（従来型）

40年間の更新費用予測



更新費用の課題

- ◆40年間の総額：316億円
- ◆40年間の平均：7.9億円/年
- ◆更新費用の課題：
建築後50年で改築すると想定した場合（従来型）は、今後40年間で**316億円**、1年あたりでは**7.9億円/年**の更新費用が予測されます。これは、過去5年間の学校施設等にかかる施設関連経費5.2億円/年の**1.5倍**に相当します。

従来型では、財源が不足する

学校等施設の整備方針

① 施設の整備方針

- 予防保全を行い、施設に不具合が生じる前にメンテナンスを施し、それに伴う多額の費用の発生を抑える
- 計画的な修繕を行い、施設を長く使用する

② 長寿命化方針

- 中長期的な維持管理にかかるトータルコストの削減、予算の平準化を実現するため長寿命化改修を実施
 - ※ただし、以下の建物は長寿命化改修を行わない
 - ・コンクリート圧縮強度が13.5N/mm²以下の施設について、長寿命化診断の結果より長寿命化に適さない建物
 - ・木造・ブロック造の建物（※適宜補修をしながら、50年を目標に使用する）

③ 目標使用年数、改修周期の設定

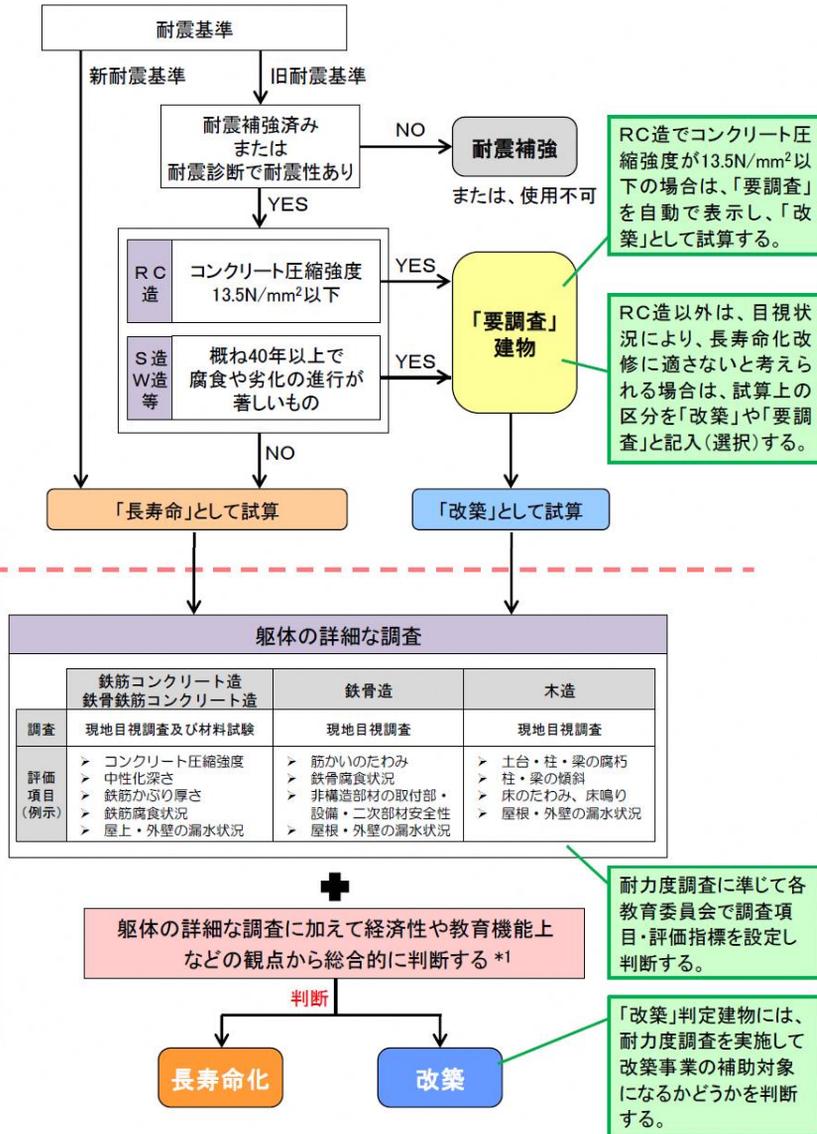
- 鉄筋コンクリート造及び鉄骨造は目標使用年数を80年（大規模改修20年、60年、長寿命化改修40年）
- 木造及びブロック造は目標使用年数を50年（大規模改修20年、長寿命化改修は行わない）

構造躯体の健全性判断

長寿命化または改築を判断

計画策定段階

工事実施段階



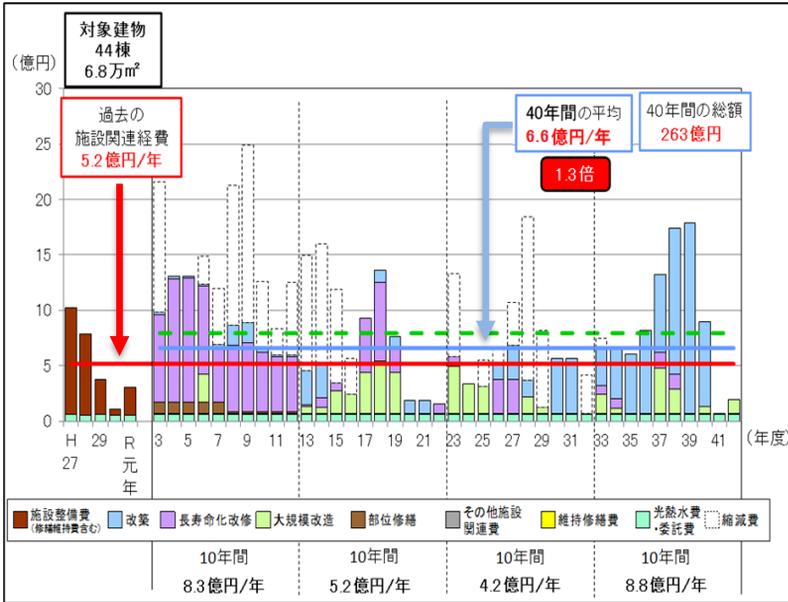
*1 例えば、時を重ねて活用され続けた木造建物等は、それ自身が文化財的価値を有することも多く、改築に際しては、こうした観点からの検討も別途行う必要がある。

40年

長寿命化型（40年）

長寿命化型

40年の更新費用



- ◆ 40年間の総額：263億円
- ◆ 40年間の平均：6.6億円/年
- ◆ **長寿命化型（40年）：**
長寿命化改修を重点的に行い施設を長く使用します。この場合、40年間で263億円、1年あたり6.6億円/年となります。従来型と比較すると、40年間で**53億円**、1年あたりでは、**1.3億円/年**の更新費用が削減されます。

1.3億円/年 削減

施設更新の実施計画

10年

実施計画（直近10年）

直近10年の実施計画

直近10年の更新費用

校種	校名	年度										
		R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R11 2029	R12 2030	
小学校	松蔭小学校	146.4							523.7			
	白狐小学校								37.5			
	江戸岡小学校									86.8		
	神山小学校			245.4								
	千丈小学校										7.8	
	日土小学校										12.5	
	真六小学校			136.4							13.1	
	川上小学校			110.1								
	双岩小学校											
	喜瀬来小学校											
中学校	川北石小学校										2.7	
	富内小学校											
	安宕中学校											
	八代中学校											
	松船中学校											
	保内中学校											
	和田町教職員住宅											

- ◆ 10年間の総額：55.2億円
- ◆ 10年間の平均：5.5億円/年
- ◆ **実施計画（10年）：**
直近10年の実施計画は、施設整備に充当できる投資額を年間で5億円程度とし、健全度・優先順位や更新時期を考慮し実施計画を作成しました。この10年間の工事別合計金額は、部位修繕が約7.2億円、大規模改修が約9億円、長寿命化改修が約37.5億円、改築が約1.5億円、維持修繕費が約1.4億円となり、長寿命化改修工事を計画的に行い施設の長寿命化を実施します。
- この計画に定めた改修等の実施時期については、施設の劣化状況などにより見直しを適宜行うこととします。

5.5億円/年 実施可能

長寿命化計画を推進するために・・・

①情報基盤の整備と活用

本計画を作成するにあたって把握した固定資産台帳・学校施設台帳・劣化状況調査票などと法定点検の結果や光熱水費などの維持管理費、工事履歴などの学校等施設データベースを固定資産台帳システムにデータベースを一元化する整備を推進していきます。



②推進体制等の整備

市長部局

- ・公共施設等総合管理計画策定見直し
- ・予算管理



教育委員会学校教育課

- ・教育大綱の検討・策定
- ・学校施設等個別計画策定見直し
- ・学校施設データベース管理

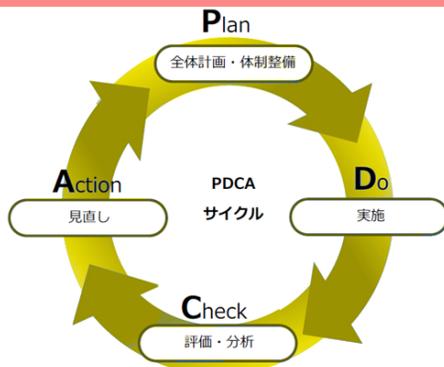


小中学校等

- ・日常的な点検実施・報告
- ・修繕・改善等の要望

学校施設の整備・管理の所管である教育委員会学校教育課が中心となって、市長部局と小中学校等と連携し、本計画の推進を図ります。施設の長寿命化を実施するためには、学校施設の日常点検や定期点検を行い、老朽化箇所や危険箇所の早期発見が必要となります。そのためにも、職員の知識の向上や点検業務の外部委託等の検討を行います。さらに、財政課などの関係部署との連携を図り、予算の調整や施設統廃合の調整を行います。具体的な施設運営の手法については、民間活力を施設の整備や管理に導入する等、民間事業者等の資金やノウハウの活用を積極的に検討していきます。

③フォローアップ



本計画は、学校施設の改修や改築などの優先順位を設定するものであり、中長期計画における予算措置を行います。左図のPDCAサイクルによるフォローアップを実践し、財政負担の平準化並びに軽減を同時に実現できるようマネジメントに取り組みます。なお、本計画では、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映して、実施計画等の見直しを行います。

八幡浜市学校施設長寿命化計画・概要版
令和3年3月発行
発行・編集：八幡浜市教育委員会 学校教育課

〒796-0292
八幡浜市保内町宮内1番耕地260番地
電話：089-422-3111